

海外出張報告書（学生用）

2013 年 2 月 12 日提出

氏名	田村 友和
所属	大学院獣医学研究科 動物疾病制御学講座 微生物学教室
学年	博士課程 1 年
出張先	タイ王国 バンコク市
出張期間	2013 年 1 月 28 日～2 月 3 日
目的	The Prince Mahidol Award Conference 2013 に報告者 (rapporteur) として参加する。人獣共通感染症の制圧に向けた取り組みへの理解を深めるとともに、国際会議でのコミュニケーション能力を習得する。

活動内容

「The Prince Mahidol Award Conference」は、公衆衛生分野で功績を遺したタイ王国の皇太子の名をとり、2007 年から毎年バンコク市で開催している国際会議である。この国際会議は毎年異なるテーマを設定しており、今年のテーマは、「A World United Against Infectious Disease— Cross Sectoral Solutions」であった。主たる会議は 5 つのセッションに分かれており、世界 80 カ国を超える国と地域の公衆衛生、家畜衛生、畜産、財政、企業等の関係者が、それぞれテーマに対する政策、学術、開発の視点から議論した。その他に実際の衛生環境や教育現場を視察する「Field Trip」を始め、サブミーティングも多く開催された。

当会議の報告者 (rapporteur) は、3 から 4 人の有志が学会のセッションを聞いてその内容を記録するとともに、各演者が講演した話および会議参加者との議論の中での重要な点をまとめ、これらの内容および課題を今後の展望としてどのように発信するのかを考えるチームである。各チームは内容をまとめたパワーポイントのスライド 3 枚と 1,200 語の要旨を 4 名のオーガナイザー (Leader Team) に提出する。それらを基にオーガナイザーが最終日のクロージングセッションである「Synthesis: Summary, Conclusion, Recommendations」で当会議のまとめとして報告することで会議の内容の参加者への理解を深めるというコンセプトで実施されている。事前の希望調査で筆者は、セッション 1「One Health: Meeting the Challenge of "A World United Against Infectious Diseases"」を担当することに決まった。このチームは他にタイ人 2 名とウガンダ人 1 名で構成され、皆ヒトの公衆衛生学の専門家 (M.D.) で学術機関に従事しているとのことであった。各チームのうち 1 名がチームのチーフ (Focal point) として活動のとりまとめとオーガナイザーとの連絡を行うが、筆者は

会議前日の有志らの会議にてこのチーフに抜擢された。

担当したセッションは、3名の講演者それぞれが「One Health」への取り組みや課題を紹介した。2時間弱のセッションが終了した後、チーム員と共に報告者（reporteur）の作業部屋にてディスカッションしながら、担当セッションを総括した。会議の一番初めのセッションということもあり、それぞれの内容は包括的な話が多く、総括する作業は大変苦労が多かった。その日の晩は歓迎パーティーが催され、チーム員とタイの伝統料理を満喫しながらタイの伝統舞踊を鑑賞することが出来て、交流を深める機会となった。

会議2日目は終日セッションが行われた。報告者（rapporteur）としての課題を終えたので、休憩の時間にはWHO、FAO、OIE等の国際機関のブースで担当者に話を聞き、また発表ポスターを見る機会にも恵まれた。

会議3日目はクロージングセッションであるオーガナイザーによる各チームからのメッセージを総括した講演を聞き、会議参加者と共に理解を深めることが出来た。チーム員と懸命に考えたスライドが会場のスクリーンに映し出された際は、皆で安堵した。

今回、国際会議に参加することで、「One Health」の実現に向けた世界各国の様々な取り組みを学ぶことが出来た。特に日頃焦点を当てている学術的な視点ではなく、国際機関あるいは政府が取り組む政策や企業が開発する技術に関するセッションが全体として多かったため、異なる視点からの意見を学ぶことが出来た良い機会であり良い刺激となった。この経験は自身の「One Health」の実現に貢献するアプローチへの参考になるものと考えられる。また、報告者（reporteur）チームのチーフ（Focal point）として会議に貢献出来たことは、諸外国の参加者あるいは研究者との交流する良い機会で大変意義があったと感じている。また、チーム構成員が筆者と異なるバックグラウンドを有していたため、彼らとのディスカッションが大変面白かった。今回得た有意義な経験を今後の研究生活に活かしたい。

貴重な機会を与えて頂いた杉本千尋教授、喜田宏特任教授を始め関係者の皆様に感謝する。

北海道大学
博士課程教育リーディングプログラム
「One Health に貢献する獣医科学グローバルリーダー育成プログラム」



図1. 会議の様子



図2. 報告者 (rapporteur) チーム



図3. 閉会式の様子



図4: 会議途中の昼食にて